

# 回収CO<sub>2</sub>を農業に利用

## 小島プレス工業

### 太啓建設と 携 実証実験 9月開始

自動車用樹脂部品製造の小島プレス工業（本社豊田市下市場町3の30、小島栄二社長）は、回収した二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を農業利用する実証実験を始める。開発中のCO<sub>2</sub>回収装置「移動型パッシブDAC」を使う。総合建設業の太啓建設（本社豊田市）と連携し、9月にも同社グループのイチゴ栽培ハウスにDACを設置。生育への影響などを検証する。用途拡大の可能性を探り、カーボンネガティブ（CO<sub>2</sub>吸収量が排出量を上回る状態）な社会の実現を目指す。

（三河・田中弥生）

DACは大気から直接、CO<sub>2</sub>を分離・回収する技術。従来のDACは、大型ファンでCO<sub>2</sub>を取り込むため、設備も大型でエネルギー消費も大きかった。小島プレスのDACは、自動車部品などを輸送するトラックに取り付ける。トラックの走行風を利用するため、ファンレスで集風エネルギーはゼロ。装置の大幅な小型化も可能になる。今年から部

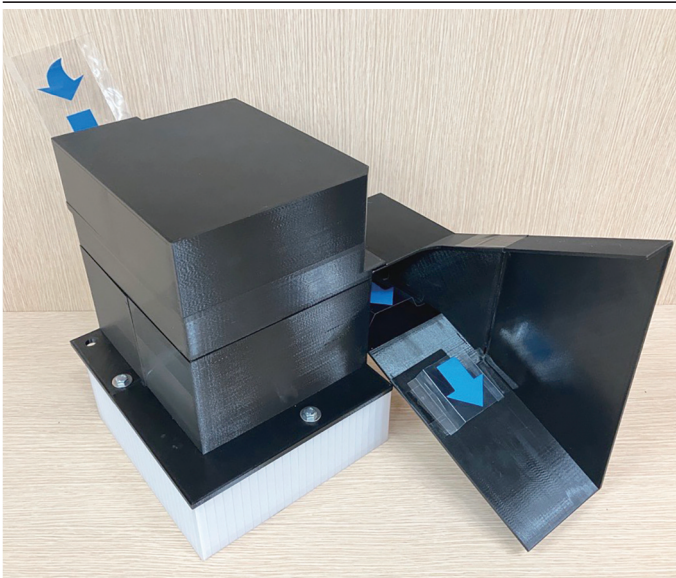
品輸送トラックなどに搭載した実証実験を開始し、CO<sub>2</sub>の回収効率などを検証している。太啓建設グループとの連携では、アグリ事業を手掛ける同社子会社のTAIK EITファーム（豊田市）が豊田市内に保有するイチゴ栽培ハウスで、9月から実証実験を開始する。両社は昨年未からハウス内でデータ取得や設備検証などの準備

を行ってきた。イチゴ苗を植え始めるタイミングで、本格的な実証実験に入る。CO<sub>2</sub>は移動型パッシブDACで回収したものを利用するほか、ハウス内にDACを設置し、農業で発生す

る余剰CO<sub>2</sub>も回収。回収したCO<sub>2</sub>はイチゴ株に送り、生育状態を観察する。TAIKEITファームはICT（情報通信技術）を駆使したスマート農業に取り組んでおり、実証実験は双方にメリットがある。小島プレスはDAC開発のため東京都立大、大気社（東京都新宿区）、パンタレイ（新潟県長岡市）、長岡技術科学大、九州大、京都工芸繊維大による産学連携チームを結成。国立研究開発法人新エネルギー・産

業技術総合開発機構（NEDO）が公募する地球環境再生に向けた支援事業「ムーンショット型研究開発事業」にも採択された。DACで回収したCO<sub>2</sub>はこれまでエネルギーや化成品としての再利用を検討してきたが、用途拡大の可能性を検証。CO<sub>2</sub>の農業活用で発育

の促進や品質向上などの効果が得られれば、大気中のCO<sub>2</sub>削減効果だけでなく、人手不足に悩む農業支援にもつながる。小島プレス工業は1938年創業。2026年3月期の売上高は2346億円。従業員数は1625人（26年4月時点）。



農業利用での実証実験を始める開発中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）回収装置「移動型パッシブDAC」

